



長崎医療センター
NAGASAKI MEDICAL CENTER NEWS

2020
JANUARY
VOL. 376

発行所

独立行政法人国立病院機構
長崎医療センター

〒856-8562
長崎県大村市久原2丁目1001-1
TEL 0957-52-3121
FAX 0957-54-0292

専齋 SENSAL



院長年頭所感
幹部職員 新年のご挨拶
年女の今年の抱負

長與 専齋 (1838年～1902年)

大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめて採用したのも専齋である。専齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

院長年頭所感



院長
江崎 宏典

あけましておめでとうございます。皆様穏やかに新しい年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は平成から令和という新しい時代を迎えた記念すべき年でした。5月1日の即位の日を挟んで前後10連休という異例の長期間の休みとなり、病院の運営がどうなるのか心配されましたが職員の皆様のご協力で大きな混乱もなく乗り切ることができました。ただ連休後、多剤耐性菌アウトブレイクが発生し、高度救命救急センターの閉鎖、それに伴って救急患者受け入れの制限等の対応を余儀なくされました。職員のみならず地域の方々にも多大なご心配をおかけしましたが、9月には再開し現在に至っています。これも全職員挙げて手指消毒の徹底などの予防対策にご尽力いただいた賜物だと感謝いたしております。感染予防は安心安全な医療の基本であり、また継続することが大切ですので引き続きよろしくお願いいたします。

昨年は自然災害も多く発生した一年でもありました。8月には佐賀県で集中豪雨により病院が孤立状態になったのも記憶に新しいところです。この時は大雨特別警報が発令され、近隣災害の発生が予想されたため、当院も災害対策本部を設置いたしました。幸いにも実働することはありませんでしたが、今後とも災害拠点病院として大規模災害が予想される際には迅速に対応できるように平素から備えてまいります。皆様のご協力をお願いいたします。

さて新年早々の今月22日23日の両日に5年ぶりとなる病院機能評価を受審いたします。皆様には準備が大変だったと思いますが、当院の強み、弱みを見直す

い機会になったのではないのでしょうか。今回蓄積したファイル等の資料は事務の方で一括して保管し、常に参照、訂正できるシステムにいたしました。これにより5年後にはより少ない負担で再受審に備えることができると思います。

今年から看護師に対する新しい研修である特定行為研修を当院で開始する予定にしています。これは2015年に新設された新しい制度であり、研修の実施は厚生労働省の指定研修機関に限られます。全国で134の施設が指定を受けていますが、残念ながら長崎県には指定研修機関がありません。そこで看護部と相談して指定に向けて準備をしていただきました。令和2年度に開講予定で、これで県内でも特定行為研修が受講可能となり、当院の役割である教育研修事業の一層の充実が図れるものと思います。

最後になりますが、去年は感染対策のために稼働病床数を減少させたこともあり、入院患者数の減少がみられ、病院運営・経営面では厳しい一年でした。ただ病床数が少ない今だからこそ、病床を効率的に運用するなどの工夫をし、利用率を高め、運営状況を改善していきたいと思っています。

「疾風に勁草を知る」という言葉があります。疾風、強い風が吹いたときに、それに負けない強い草を見分けることができるということです。私は逆境になった今こそ当院の底力、真の力がわかるという意味だと解釈しています。それぞれの部門部署の底力を発揮して、年末に今年はいいい年であったと思えることを願って、私の年頭の挨拶といたします。

長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実にを行い、地域拠点病院として住民と医療機関からの信頼を得る。

1. 安全で質の高い医療を提供する
2. 絶対に断らない救急医療の最後の砦となる気概を持つ
3. 地域の医療機関、行政と密接に連携する
4. すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
5. 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する
6. 健全な経営基盤を確立する

新年のご挨拶(幹部職員)

副院長 八橋 弘

新年明けましておめでとうございます。まず、年末年始の急患患者さんに対応いただき有難うございました。

さて、去年は当院にとりまして激動の年であったと思います。4月に私が副院長に就任して2週間もたたない時から院内感染の問題が顕性化しました。それ以後、この問題は当院の救急医療の一部の機能を停止してでも克服しなければならない大きな課題となりました。患者さんをはじめとする多くの方々にご負担をおかけするような事態となりました。大変申し訳ないことだと思っています。しかしながら、試行錯誤を重ねながらも病院職員が一体となって努力し対応することで、この感染症を沈静化させる目途が立ちました。有難うございます。院内外の多くの方々からも励ましの言葉をかけていただきました。感染対策でも去年の当院は「One Team」の年だったと思います。新年の時点では終息宣言までには至っていませんが、令和2年の目標にしたいと思っています。

さて、昨年9月、全国1445の公的病院の中から将

来の地域医療構想の観点から再編統合の議論が必要と判断された424（29％）の病院名が厚労省から公表されました。厚労省のホームページに、1445の公的病院名リストとそれぞれの病院機能15項目について評価結果が公開されています。条件を満たさない項目には●（黒丸）が表示され、●が多い424の病院名が公表されたわけです。

去年の暮れに医師会の先生からこのように言われました。「長崎医療センターは凄いですね。●がひとつもない。全て満たしている。ざーっとリストから探してみても●がひとつもない病院は探せなかった。全国でも数少ない全ての条件を満たした病院なんですね。」

そのコメントを聞いて、●がひとつもない病院名をリストアップしたところ全国で22病院（1.5％）ありました。その中に長崎医療センターの名前を見つけることができました。

今年も地域に愛される病院でありつづけたと思っています。

臨床研究センター長 黒木 保

新年あけましておめでとうございます。

皆様にとってより良き一年になりますよう祈念いたします。

臨床研究センターでは、“リサーチよろず相談所”が臨床研究のバックアップを担っております。その名の通りリサーチに関する多種多様なすべての相談にのる場所です。昨年同様、今年も是非みなさんに足を運んでいただければと思います。長崎医療センターの研究における強みは、その多様性にあると思います。医師以外

の看護師、薬剤師、検査技師、リハビリなどの皆さんがこれほど研究に目を向けてくれる病院はそうないと自負しております。臨床研究センターのコンセプトである「エンジョイ リサーチ」を今年も推し進めたいと思います。研究は楽しいものです。臨床とも両立できます。一体感をもって病院全体でリサーチを楽しむ文化を作り上げていきたいと思っています。

今年もよろしくお願いいたします。

統括診療部長 吉田 真一郎

新年あけましておめでとうございます。

本年が皆さまにとりまして、さらに素晴らしい一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

本年は1月に病院機能評価受審、そして4月には診療報酬改定が控えています。医師の働き方改革、そのためのタスク・シェア／シフトの推進も引き続いて重要なテーマです。働きやすく、充実感の持てる職場環境を目指して、またその中で診療部それぞれの部署が十分かつ円滑にその役割をはたすことが出来るよう、現

場の目線を大事にすることを心がけながら、皆さんと一緒に取り組んで行きたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

本年12月には例会長として日本輸血・細胞治療学会九州支部会を長崎市で開催させていただくことになりました。臨床検査科・輸血管理室に事務局をお願いして準備を進めているところですが、院内の輸血に関連する皆さんにもこれから色々とお手伝いのご相談させていただきます。ご支援、ご協力をよろしくお願いします。



新年のご挨拶(幹部職員)

事務部長 藤野 弘幸

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては
お健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

厚生労働省が公表した公立病院の再編リストはいろいろ
波紋が広がっています。国立病院機構のSUREプロジェクト
(確かな未来のために)では、現下NHOの経営状況や
2040年度の厳しい環境下にあっても、良質な医療を安定的
に提供し、地域から求められる医療機関として今後も存在
し続けていくために、機を見て果敢な決断、行動をとるこ
とを求めています。地域医療構想調整会議等あらゆる機会
を通じて当院をアピールしていきたいと思っています。

院内感染の影響により経営は非常に厳しいですが、高度
救命救急センター再開後は改善傾向にあります。病床利用
率を向上させ経営基盤を安定させることが重要です。4月
には診療報酬改定があり、最新情報を入手し施設基準の取

得など適切に対応して参りたいと思います。

昨年10月にMRI3テスラを整備しました。また、年末にセ
キュリティシステム(電子錠)、病院情報システム(HIS)コンサ
ルタント契約を締結しました。セキュリティシステムについては
3月までに更新予定です。また、HISコンサルタントについて
は2021年度中の更新に向けて、仕様書作成支援などをお
願いするものであり、競争原理を働かせ価格の低廉化を図り
たいと考えています。

36協定の遵守や年次休暇5日以上取得など適正な勤務
時間管理に努めて頂いているところです。本年は、出退勤時
間を記録するためのシステム化やタスクシフティングについて、
長時間労働削減等ワーキンググループで検討していきたいと
考えています。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

看護部長 原田 久美子

新年あけましておめでとうございます。皆さま健やかに新
春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、院内感染の問題に対し、職員が知恵を出し合
い、迅速に対応し、一つの大きな壁を乗り越えた1年であ
ったと感じています。この件に関しましては、今も終息には至
っていませんが、職員の協力で、その後の拡大に至らず、患
者さん方へ寄り添った看護が提供できています。このこと
により、一時的に高度救命救急センターを閉鎖せざるを得な
い状況となりましたが、昨年9月から、高度救命救急セン
ターの運用も再開し、これまで同様、救急医療の最後の砦
としての気概で活動しております。看護職員一同、患者の受
け入れ、対応に精一杯頑張っていきます。

昨今、地域医療構想のことで、様々なことが話題になっ
ておりますが、看護部としましては、地域医療貢献の一環と
して、地域の看護・介護職員、住民等を対象とした研修を強
化しています。昨年も認定看護師・専門看護師・JNPに
よる専門領域の質向上を図る研修、助産師による思春期
教育、中学生・高校生の見学・実習受け入れ、看護管理
者の育成研修等を行い、多くの看護職員が活躍してくれま
した。それぞれの研修の対象である受講生からお声をいた

だくことが私たちの励みになっています。先日、看護管理者
育成研修を受講された主任さんが、研修の修了証書を抱き
しめながら、「これは私の一生の宝物です。」と話して帰られ
ました。このような影響を与えることができる研修を当院で
開催できる、院内だけでなく院外の同職者を教え育めるこ
とに、研修を企画・実施している担当者に感謝するとともに、
この活動こそが長崎医療センターの看護部に求められてい
ることであることを再認識しました。

今年は、さらに新たなことにチャレンジします。特定行為
研修を当院で開催します。最終的には、2月の厚生労働省
の医道審議会での指定を待ち、院内職員や県内の各施設
に案内させていただきます。看護の視点で特定行為を実施
できる高度な能力を持つ看護師を当院、地域のために育成
したいと考えています。

また、働き方改革の動向も見据えながら、患者さんが安
心して療養できる環境、職員皆さんが働きやすい環境の整
備に皆さんと一緒に継続して取り組んでいきます。

今年も「その人がその人らしく」の看護理念を胸に、さら
なるあたたかな看護を提供していきましょう。今年もどうぞよ
ろしくお願いします。

年女の今年の抱負

明けましておめでとうございます。

さて、初頭にあたった抱負ですが、私の好きな相
田みつをさんの詩の中に“出逢い そして感動 人間を
動かし 人間を変えてゆくものは むずかしい理論や理
屈じゃないんだなあ 感動が人間を動かし 出逢いが人
間を変えてゆくんだなあ・・・”とあります。

看護の場面のみではなく、たくさんの出逢いと感動
を感じるような人間関係を築ける一年にしたいと思いま
す。また、個人的な抱負ですが、干支である「ねずみ」
のようにちょろちょろと動き回り、ダイエットを成功したい
と夢見ております。

昨年は、ラグビーのワールドカップで興奮しました。今
年は東京オリンピックも開催され、楽しみが増える1年
になると思います。皆さまも健康な良い年となるように
祈っております。

治療検査センター 看護師長 森 順子

新年明けましておめでとうございます。

長崎医療センターで働き始め、1年が経とうとしてい
ます。右も左も分からない社会人1年目でしたが、優し
く指導してくださる課長、班長を始め、周りの方々に支
えられ、ここまで働くことが出来ました。

今年は2回目の年女、就職をして2年目となります。
まだまだ未熟で、今後も皆様にご迷惑をかけるような
ことがあると思いますが、契約係として一生懸命、無
我夢チューに院内を動き回り頑張ってますので、
本年もどうぞよろしくお願いいたします。

契約係 尾山 遥

